



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日語部)
 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「吃音克服の副大統領」

『羅府新報』の「磁針」(九月16日付)に「吃音克服し、副大統領、次は？」というタイトルの記事が載った。読む者に深い共鳴を感じさせる内容であった。「僕が君に話したことを決して忘れないで。君は必ず吃音を克服することができ。僕がかつてそうだったように。困難を打ち破った時、君はその手で勝利をつかみ取ることが出来るだろう」。これはジョー・バイデン副大統領が一九九四年、当時まだデラウェア州選出の上院議員だった頃、吃音症の少年と出会った後、少年に宛てた手紙の中の一文だ。文章は手書きで書かれていた。少年の名はブランドン・ブロックスさん。彼は学校の遠足でワシントンDCを訪れた際、バイデン氏に質疑応答の機会が与えられた。質問しようとした時、吃音の症状が出てしまった。慌てふためくブロックスさんをバイデン氏はそばに呼び寄せ、かつて自分も吃音に苦しんだことを明かす。そして可能な限り人前でスピーチし克服したのだと告げた。バイデン氏の人生には苦難がつきまとった。交通事故で最初の妻と幼い娘を亡くし、同乗していた長男と次男は負傷。2人の入院先のベッドの横で上院議員の就任宣言をした。今年5月にはその長男を脳腫瘍でなくしている。7月にバイデン氏がLAを訪れた際、演説を聞く機会があった。スピーチはかつて吃音というコンプレックスを抱えていたとは微塵も感じさせない程、力強いものだった。スピーチ社会米国では、学校にもスピーチクラスがあり、米国人は子供の頃から鍛えられる。スピーチの名手であれば副大統領にまで上り詰めることは到底できない。並大抵の努力ではなかったことが想像できる。激励を受けたブロックスさんはその後、バイデン氏のアドバイス通り、人前でスピーチを始めた。20年の歳月が経ち、彼は父となり、現在は弁護士として活躍している。バイデン氏は現在、時期大統領に立候補するかどうかで注目されている。かつて吃音だった少年が大統領になることはあるのか、出馬表明すれば、吃音で悩む人々に勇気を与えてくれることだろう。

パウロは、てんかん、目の病、それに湾曲した背骨などという肉体的問題があった。だが、彼は主イエスによって、「たとえわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされてゆく」(1コリント四・16)と宣言したように、彼は霊的な世界に目覚めてから、その信仰こそが人を変えるのだと確信したのであった。信仰によって、誰しもが天にすら希望を持つようになれるのである。私たちの弱さこそが、希望に変えられる恵みに満ち満ちている。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

